

シラバス（2018 年度）

共通科目系列形成科目

（2018 年度入学生向け）

目次

一年次前期担当科目	3
一年次後期担当科目	15

履修ガイドの系統図を見ながらカリキュラム全体として履修計画をたてること。

※注意

この冊子には 2018 年度入学生に提供されるカリキュラムの中で 1 年次担当となる科目のみが掲載されています。2017 年度以前入学生は、各自でアクティブアカデミーのアカウントに入り、シラバスを確認して下さい。

一年次前期配当科目

科目一覧

ページ	科目名	授業コード	時間割
4	歴史学	16102	月曜 1 限
5	憲法 I	16103	月曜 1 限
6	法学入門	16105	月曜 2 限
7	教育学	16107	火曜 1 限
8	大学生入門 a	16108	火曜 3 限
8	大学生入門 b	16112	火曜 4 限
8	大学生入門 c	16128	水曜 4 限
9	保健体育実技 Aa	16110	水曜 1 限
9	保健体育実技 Ab	16116	木曜 1 限
9	保健体育実技 Ac	16118	金曜 1 限
10	心理学	16111	水曜 1 限
11	ながさを学ぶ	16119	水曜 4 限
12	日本事情概論	16120	金曜 1 限
13	政治学	16127	月曜 2 限
14	社会学 I	16129	木曜 1 限

講義科目名: 歴史学
英文科目名: Historical Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
木永 勝也			
1 年次以上	全学部	週 2 時間	

講義概要	この授業では、時期的には19世紀後半の日本の近代・現代をとりあげます。事例として長崎県内のことがらを積極的にとりあげ紹介しますが、日本において近代国家、国民国家が形成・確立される過程と、そこから派生するいくつかの問題を検討します。細かい事実経過を紹介・検討するというよりも、中学・高校の歴史学習で学んできたような歴史的事象を読み直す、あるいは再解釈していくといった内容となります。
授業計画	<p>19 世紀の日本と地域社会</p> <p>以下のような項目で進めていきますが、受講生の関心、授業の進行度合いにより調整を行います。</p> <p>第 1 回 はじめに</p> <p>第 2 回 明治維新―「維新」ということばの意味、「維新」イメージの多様性について</p> <p>第 3 回 明治維新の終わりに関する諸説(1) 廃藩置県など</p> <p>第 4 回 明治維新の終わりに関する諸説(2) 3 大改革など</p> <p>第 5 回 明治維新の終わりに関する諸説(3) 西南戦争など</p> <p>第 6 回 近代化と租税制度(地租改正)</p> <p>第 7 回 地域社会における「開化」政策の展開</p> <p>第 8 回 同 (長崎の場合)</p> <p>第 9 回 改暦と風俗への規制</p> <p>第 10 回 同 (長崎の場合)</p> <p>第 11 回 「開国」とはなにか</p> <p>第 12 回 東アジアにおける国際関係の変化と長崎</p> <p>第 13 回 「国境」の形成をめぐる</p> <p>第 14 回 明治初期の対外関係の変化と長崎県域</p> <p>第 15 回 まとめまたは補足</p>
授業形態	大半は講義(レクチャ)形式となります。関連する映像資料なども紹介・利用して理解を深めるようにしていきます。
達成目標	学問としての歴史学として、〈現在〉とはことなる「過去」があったことを、またその「過去」をどのような視点や方法で把握し理解していくのかについての理解を深めることを通じて、暗記型の勉強ではなく、歴史の見方・考え方のきっかけとなるような学習の機会にすることが目標です。
評価方法	中間にレポートを実施します。学期末に筆記試験を行います。受講者数が少ない場合はレポートになります。ただし、毎時間コメント用紙を提出してもらいますので、提出状況、記載された内容を平素の授業参加に関する評価対象とします。
評価基準	中間レポートが 30%、期末試験またはレポートの成績が 55%、平素の授業への取り組み状況が 15%で配分する。100 点満点として、60 点以上が合格となる。
教科書・参考書	特にテキストは用意しませんが、必要な資料・史料は適宜プリントとして配布します。
履修条件	特にありません。
履修上の注意	特にありません。
予習・復習	復習として、講義で書き留めたノートをもとに、講義内容や自分で考えた事を整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努めること。授業内容と関連する図書、参考になる図書を随時紹介するので、積極的に読んでいくことを期待します。
オフィスアワー	月曜日12時30分から3時限目終了時くらいまで。他の曜日については特にありませんが、午後6時くらいまでが適切です。不在もありますので、できれば事前に連絡して訪ねてください。
備考・メッセージ	* JABEE 学習・教育目標(1.5)

講義科目名: 憲法 I

英文科目名: Constitution I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
柴田 守			
1 年次以上	全学部	週 2 時間	

講義概要	本講義では、(1)日本国憲法の基礎や統治機構に関する基本的な内容を理解するとともに、(2)私たちが共生する社会において、国家機関がどのように統治していくべきなのかを考えていきます。
授業計画	<p>日本国の統治の在り方を考える</p> <p>第 1 回 ガイダンス・日本国憲法の基礎</p> <p>第 2 回 象徴天皇制</p> <p>第 3 回 平和主義(1)ー憲法 9 条</p> <p>第 4 回 平和主義(2)ー平和主義に関する諸問題</p> <p>第 5 回 統治の基本原則(1)ー権力分立、法の支配</p> <p>第 6 回 統治の基本原則(2)ー国民主権</p> <p>第 7 回 統治の基本原則(3)ーデモクラシー</p> <p>第 8 回 国会(1)ー国会の地位と権能</p> <p>第 9 回 国会(2)ー国会の組織と活動</p> <p>第 10 回 内閣(1)ー行政権、議院内閣制</p> <p>第 11 回 内閣(2)ー内閣の組織と権能</p> <p>第 12 回 裁判所(1)ー司法権</p> <p>第 13 回 裁判所(2)ー最高裁判所の組織と権能</p> <p>第 14 回 財政・地方自治</p> <p>第 15 回 国法の諸形式</p>
授業形態	<p>【講義形式】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義は、受講者の予習をもとに、教科書、レジュメ、ワークシートに沿って講述する方法をとります。 ・講義は、ワークシートの設問に沿い、受講者との対話によって行います(したがって、受講者には、講義の予習課題として事前に配布するワークシートに必ず取り組んでいただき、それを授業日当日に提出していただきます)。 ・対話形式の講義を進めやすくするために、受講者に対し、座席を指定いたします。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者は、日本国憲法の基礎や統治機構に関する基本的な内容を正しく理解し、新聞やニュースで話題となる社会問題を考える能力を身につけることができる。 ・受講者は、私たちが共生する社会での統治のあり方について考える能力を身につけることができる。
評価方法	(1)授業内平常点(授業内での発言力、授業態度、ワークシートの提出状況・内容)と、(2)授業内テスト(2 度実施)にもとづいて評価します。授業内平常点 50%、授業内テスト 50%を目安にして最終評価をおこないます。
評価基準	<p>【授業内平常点】</p> <p>①授業内での発言力では、授業内での質疑応答を加点・減点評価します。</p> <p>②授業態度では、議論や作業での積極性を加点評価します。他方で、欠席・遅刻を減点評価し、授業を妨害する行為などに対しては大幅に減点評価します。</p> <p>③ワークシートの提出状況・内容では、提出状況や内容に応じて加点・減点評価します。</p> <p>【授業内テスト】</p> <p>講義の内容を正しく理解し、与えられたテーマについて適切に解答できるかを見ます。</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <p>安西文雄・巻美矢紀・穴戸常寿『憲法学読本[第 2 版]』(有斐閣、2014 年) ISBN978-4-641-13172-9</p>
履修条件	特になし。
履修上の注意	<p>講義の進行、成績の評価、予習などに関する方法を、第 1 回講義のガイダンスにおいて詳しく説明します。受講希望者は、第 1 回講義に必ず参加してください。</p> <p>＊ ＊ 第 2 回講義以降は一切説明いたしませんのでご注意ください。 ＊ ＊</p>
予習・復習	<p>【ワークシートへの取り組み(予習)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者は次回の講義内容について教科書の指示されたページを精読し、ワークシートの設問に解答します(1 回 2.5 時間×14 回)。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者は自筆ノートを整理するとともに、ワークシートの誤答を修正します(1 回 2.5 時間×14 回)。
オフィスアワー	日時: 月曜日 12 時 30 分～14 時 30 分(授業期間中) 場所: 柴田研究室(3 号館 3 階)
備考・メッセージ	<p>ぜひ毎朝、新聞を読んで授業に臨んでください。講義が進むにつれて、社会のことが分かるようになります。新聞の内容がだんだん理解できるようになると思います。</p> <p>＊ JABEE 学習・教育目標(1.5)</p>

講義科目名: 法学入門

英文科目名: An Introduction to Law

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
柴田 守			
1 年次以上	全学部	週 2 時間	

講義概要	本講義では、あるストーリーを通じて、(1)憲法、民法、刑法を中心に私たちの身近にある法の基本的な内容を理解するとともに、(2)実際に身近で起こりうる法的紛争をどのように解決していくべきかを考えていきます。
授業計画	<p>私たちの身近にある法を通じて社会を知ろう</p> <p>第 1 回 ガイダンス・法学を学ぶにあたって</p> <p>第 2 回 [刑事法①]刑法の基礎(1)－犯罪の成立</p> <p>第 3 回 [刑事法②]刑法の基礎(2)－刑罰</p> <p>第 4 回 [刑事法③]刑事訴訟法の基礎(1)－警察・検察段階</p> <p>第 5 回 [刑事法④]刑事訴訟法の基礎(2)－裁判段階</p> <p>第 6 回 [民事法①]不法行為法の基礎(1)－不法行為の成立</p> <p>第 7 回 [民事法②]不法行為法の基礎(2)－損害賠償</p> <p>第 8 回 [民事法③]契約法の基礎(1)－契約の成立と効力</p> <p>第 9 回 [民事法④]契約法の基礎(2)－契約自由の原則とその制限・例外</p> <p>第 10 回 [民事法⑤]家族法の基礎(1)－家族</p> <p>第 11 回 [民事法⑥]家族法の基礎(2)－相続</p> <p>第 12 回 [憲法①]統治機構(1)－三権分立、国会</p> <p>第 13 回 [憲法②]統治機構(2)－内閣、裁判所</p> <p>第 14 回 [憲法③]基本的人権(1)－基本的人権の不可侵性とその制約</p> <p>第 15 回 [憲法④]基本的人権(2)－個人の尊厳と法の下での平等</p>
授業形態	<p>【講義形式】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義は、受講者の予習をもとに、教科書、レジュメ、ワークシートに沿って講述する方法をとります。 ・講義は、ワークシートの設問に沿い、受講者との対話によって行います(したがって、受講者には、講義の予習課題として事前に配布するワークシートに必ず取り組んでいただき、それを授業日当日に提出していただきます)。 ・対話形式の講義を進めやすくするために、受講者に対し、座席を指定いたします。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者は、憲法、民法、刑法を中心に私たちの身近にある法の基本的な内容を正しく理解し、新聞やニュースで話題となる社会問題を考える能力を身につけることができる。 ・受講者は、実際に身近で起こりうる法的紛争をどのように解決していくべきかについて考える能力を身につけることができる。
評価方法	(1)授業内平常点(授業内での発言力、授業態度、ワークシートの提出状況・内容)と、(2)授業内テスト(2 度実施)にもとづいて評価します。授業内平常点 50%、学期末試験 50%を目安にして最終評価をおこないます。
評価基準	<p>【授業内平常点】</p> <p>①授業内での発言力では、授業内での質疑応答を加点・減点評価します。</p> <p>②授業態度では、議論や作業での積極性を加点評価します。他方で、欠席・遅刻を減点評価し、授業を妨害する行為などに対しては大幅に減点評価します。</p> <p>③ワークシートの提出状況・内容では、提出状況や内容に応じて加点・減点評価します。</p> <p>【授業内テスト】</p> <p>講義の内容を正しく理解し、与えられたテーマについて適切に解答できるかを見ます。</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <p>松井茂記ほか『はじめての法律学－HとJの物語[第5版]』(有斐閣、2017 年) ISBN:978-4-641-22092-8</p>
履修条件	特になし。
履修上の注意	<p>講義の進行、成績の評価、予習などに関する方法を、第 1 回講義のガイダンスにおいて詳しく説明します。受講希望者は、第 1 回講義に必ず参加してください。</p> <p>＊ ＊ 第 2 回講義以降は一切説明いたしませんのでご注意ください。＊ ＊</p>
予習・復習	<p>【ワークシートへの取り組み(予習)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者は次回の講義内容について教科書の指示されたページを精読し、ワークシートの設問に解答します(1 回 2.5 時間×14 回)。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者は自筆ノートを整理するとともに、ワークシートの誤答を修正します(1 回 2.5 時間×14 回)。
オフィスアワー	日時:月曜日 12 時 30 分～14 時 30 分(授業期間中) 場所:柴田研究室(3 号館 3 階)
備考・メッセージ	<p>ぜひ毎朝、新聞を読んで授業に臨んでください。講義が進むにつれて、社会のことが分かるようになります。新聞の内容がだんだん理解できるようになると思います。</p> <p>＊ JABEE 学習・教育目標(1.5)</p>

講義科目名: 教育学
英文科目名: pedagogy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
上 園 恒太郎			
1 年次以上	全学部	週 2 時間	

講義概要	本講義では、参加者の関心と授業者の関心にしたがって、教育に関わる基本的な概念「人間」「子ども」に焦点をあて、教育という営みの可能性、意味について多面的な考察を行なう。具体的には、「人間」概念の定義、「子ども」概念の誕生や大人の視線、近代的な教育システム、教育の目的、学校の誕生などのテーマを取り上げ、「なぜ学校へ行くか」等の課題について検討し、教育を考察する視座を養う。
授業計画	教育学 第1講 教育とは何かー「子ども」概念の誕生と変遷ー 第2講 人間概念を再考する 第3講 ダーウィニズムと人間の定義 第4講 「子ども」の誕生 第5講 赤ずきんの不思議 第6講 赤ずきんと子ども観 第7講 近代子ども観の成立 第8講 学校の成立 第9講 軍隊・運動場 第10講 刑務所・校舎 第11講 教えることと学ぶこと 第12講 教育の目的 第13講 教育言説を読み解く(1)「なぜ学校へ行くのか」 第14講 教育言説を読み解く(2)「いじめはなくなるのか」 第15講 教育言説を読み解く(3)「ゆとり教育は失敗だったか」
授業形態	講義、事前の調べ学習、討論
達成目標	教育や学校に対する既知事項やイメージにとらわれず、教育という営みを多角的に理解できる。
評価方法	学期末のレポート(50 点)と出席・ミニレポート(50 点)により評価する。
評価基準	上記の方法によって出された点数が 60 点以上を単位取得の基準とする。
教科書・参考書	○ケストナー、飛ぶ教室、池田香代子訳、岩波少年文庫 2006年 ○無着成恭、山びこ学校ー山形県山元村中学校生徒の生活記録、岩波文庫 ○A.ポルトマン『人間はどこまで動物か』岩波新書
履修条件	特になし
履修上の注意	特になし
予習・復習	テキストを選び、入手し、読んでおくこと
オフィスアワー	随時実施
備考・メッセージ	* JABEE 学習・教育目標(1.5)

講義科目名: 大学生入門 a,b,c

英文科目名: Foundations for College Success

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	2 単位	選択(総合情報学科は必修)
担当教員			
形成科目担当教員(共通教育部門)			
1 年次以上	全学部	週 2 時間	

講義概要	本講義では、(1)4 年間のキャンパスライフを充実したものにするために、それに必要なことを考えるとともに、(2)大学での講義を受講するうえで必要不可欠な能力やスキルを身につけることを目的にします。
授業計画	<p>キャンパスライフの充実とアカデミックスキルの修得</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス(*第 1 回は「情報基礎」との合併授業です) 2 キャンパスライフ(1)ー大学の授業に関する疑問に答えます 3 キャンパスライフ(2)ーみんなに自己紹介をしよう 4 キャンパスライフ(3)ー4 年間のキャンパスライフをデザインしてみよう 5 キャンパスライフ(4)ーキャンパス内外の清掃活動をつづけて大学生活のマナーを考えてみよう 6 アカデミックスキル(1)ーノートの取り方を学ぼう 7 アカデミックスキル(2)ー講演で実際にノートを取ってみよう 8 アカデミックスキル(3)ー自分のノートをもとにみんなで議論してみよう 9 アカデミックスキル(4)ー疑問に思ったことを調べてみよう 10 アカデミックスキル(5)ー発表やレポート作成をする上で大切な作法(倫理)を身につけよう 11 アカデミックスキル(6)ー調べたことを発表してみよう(グループ前半) 12 アカデミックスキル(7)ー調べたことを発表してみよう(グループ後半) 13 アカデミックスキル(8)ーレポートの書き方を学ぼう 14 アカデミックスキル(9)ー実際にレポートを書いてみよう 15 アカデミックスキル(10)ーレポートを修正して完成させよう
授業形態	<p>【講義形式】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義は、全体での講義を行うとともに、教員ごとに少人数のグループに分かれて、議論や作業などを行います。 ・アカデミックスキルの回では授業外で作業をしていただきます。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者は、論理的思考力・自己表現力を身につけることができる。 ・受講者は、アカデミックスキルを身につけることができる。
評価方法	(1)授業内平常点(グループ議論での発言力、授業態度)と、(2)レポートにもとづいて評価します。授業内平常点 60%、レポート 40%を目安にして最終評価をおこないます。
評価基準	<p>【授業内平常点】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①グループ議論での発言力では、授業内での質疑応答や発言の内容を加点・減点評価します。 ②授業態度では、議論や作業での積極性を加点評価します。他方で、欠席・遅刻を減点評価し、授業を妨害する行為などに対しては大幅に減点評価します。 <p>【レポート】</p> <p>レポートの書き方によって、自分の調べてきたことを適切にレポートできているかにより評価します。</p>
教科書・参考書	ありません。プリントを適宜配布します。
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> ①2018 年度入学生であることが必須条件です。 ②講義に参加して行う作業がすべて成績評価の対象になりますので、全 15 回に必ず出席することも必須条件です。 ③アカデミックスキルの回では、積極的な自宅学習が求められます(詳しくは「予習・復習」を参照)。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて教室が変更される場合がありますので、すべて教員の指示に従ってください。 ・履修者人数を制限します。履修希望者が予定人数を超えた場合には抽選になります。
予習・復習	<p>【アカデミックスキル(1)～(3)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者はノートを整理して、議論の準備をします(5 時間)。 * 予習・復習に相当 <p>【アカデミックスキル(4)～(7)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者は議論を踏まえて、ノートを整理します(2 時間)。 * 復習に相当 ・受講者は議論を踏まえて、疑問に思ったことを図書館で調査します(3 時間)。 * 予習に相当 ・受講者は調査を踏まえて、発表の準備をします(10 時間)。 * 予習に相当 <p>【アカデミックスキル(8)～(10)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者は発表の質疑応答を踏まえて、レポートを作成します(30 時間)。 * 予習に相当 ・受講者は教員の添削に基づきレポートを修正します(10 時間)。 * 復習に相当
オフィスアワー	教員により異なりますので、第 1 回授業の際にお伝えします。
備考・メッセージ	<p>大学生として必要な能力やスキルを身につけることができますので、ぜひ主体的かつ積極的な姿勢で参加してください。学びの姿勢に対してできる限り支援します。</p> <p>* JABEE 学習・教育目標(1.5)</p>

講義科目名: 保健体育実技 A

英文科目名: Health and Physical Education A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
前門 孝志、岡 茂行			
1 年次以上	全学部	週 2 時間	

講義概要	<p>●体力・技能・身体能力を高め、心身ともに健康で豊かな人間の育成を目標とする。学生が大学で何をどのように学ぶかについて考え、保健体育科目の必要性について理解を深め、その課題について取り組み、心身ともに健康で意欲的な学生生活を送る事を目的とする。</p> <p>●バドミントン・卓球・バスケットボールを題材として、身体運動の心身への効果や実践方法を身につける。また、各競技が持つ特性を理解し、基礎的な技術を身につけ、楽しくゲームが行えるようにする。</p> <p>●実技種目 バドミントン、バスケットボール、卓球。</p>
授業計画	<p>授業計画(例としてバドミントンを挙げる)</p> <p>第 1 回 オリエンテーション 授業の進め方、ねらい</p> <p>第 2 回 基本技術の習得① ラケットの持ち方</p> <p>第 3 回 基本技術の習得② 基本的な打ち方ルール説明</p> <p>第 4 回 基本技術の習得③ サーブ、ゲーム(シングルス)</p> <p>第 5 回 基本技術の習得④ ハイクリア、ゲーム(シングルス)</p> <p>第 6 回 基本技術の習得⑤ スマッシュ、ゲーム(シングルス)</p> <p>第 7 回 基本技術の習得⑥ カット、ゲーム(シングルス)</p> <p>第 8 回 基本技術の習得⑦ ドロップ、ゲーム(シングルス)</p> <p>第 9 回 基本技術の習得⑧ レシーブ、ゲーム(シングルス)</p> <p>第 10 回 基本技術の習得⑨ ドライブ、ゲーム(シングルス)</p> <p>第 11 回 基本技術の習得⑩ ヘアピン、ゲーム(シングルス)</p> <p>第 12 回 基本技術の習得⑪ ロブ、ゲーム(ダブルス)</p> <p>第 13 回 基本技術の習得⑫ ドリブン、ゲーム(ダブルス)</p> <p>第 14 回 基本技術の応用⑬ ゲーム(シングルス、ダブルス)</p> <p>第 15 回 基本技術の応用⑭ ゲーム(シングルス、ダブルス)</p>
授業形態	実技・実技種目 バドミントン、バスケットボール、卓球
達成目標	競技特性・ルールを理解し、協調性を持ちつつ、技能を発達させることを目的とする。
評価方法	<p>授業への積極的な参加・態度(欠席は減点になる)</p> <p>基本技術の習得・理解度</p> <p>ゲームの勝敗・内容</p>
評価基準	<p>授業に対する「積極的な」参加態度 50%、</p> <p>技能内容理解度 30%、</p> <p>応用技能(ゲームの勝敗や内容)20%</p>
教科書・参考書	特になし
履修条件	<p>実技種目は上記の通りであるが、体育施設・受講者数の都合により、変更することがある。</p> <p>4回以上欠席したものは、評価方法・評価基準に照らして単位を与えることはできない。</p> <p>教免法施行規則第 66 条 5 にさだめられた科目</p> <p>保健体育実技A未修得者。</p> <p>保健体育実技Bの単位を保健体育実技Aの単位に振替える事はできない。</p>
履修上の注意	運動するに相応しい服装を用意すること
予習・復習	<p>実技種目のルール・特異性を前もって理解しておくこと。</p> <p>実技種目を理解し、習得したことをイメージすること。</p> <p>常に健康に留意しておくこと。</p>
オフィスアワー	随時
備考・メッセージ	特になし

講義科目名: 心理学
英文科目名: Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
村田 義幸			
1 年次以上	全学部	週 2 時間	

講義概要	心理学は、人間の心―意識、無意識―や行動について考える学問です。知る・考える、感じる、志す等心の働きと、それが外に表れた行動についての理解を深めます。
授業計画	第 1 回:心理学の意義・・・心理学の定義、歴史、研究法について 第 2 回:環境認知・・・視覚を中心に、環境について知る働き(知覚)について 第 3 回:学習・・・学習の理論、生涯学習について 第 4 回:記憶・・・記憶の過程、記憶の種類、メタ認知について 第 5 回:知能・・・知能の定義、知能検査について 第 6 回:思考・・・問題解決過程、創造的思考、批判的思考 第 7 回:パーソナリティ(1)・・・パーソナリティの理論、形成過程 第 8 回:パーソナリティ(2)・・・健康なパーソナリティ 第 9 回:適応の過程・・・適応の意味、フラストレーション、葛藤 第 10 回:ストレスと健康・・・ストレスの意味、対処法、健康増進 第 11 回:笑いと健康・・・笑いの効用 第 12 回:個人と集団・・・対人認知、社会的態度 第 13 回:コミュニケーション・・・言葉の機能、非言語的手段 第 14 回:発達の過程・・・発達の意味、発達段階と発達課題 第 15 回:現代社会の特質・・・自己理解、生き甲斐を求めて 第 16 回:定期試験
授業形態	講義
達成目標	・知覚、記憶、学習、思考などの認知機能について理解。 ・欲求や喜怒哀楽の情など人間の感情生活について理解。 ・個性的な存在として自己の理解を深め、自己実現の過程について理解。 ・社会的存在である人間の生活について理解。
評価方法	定期試験(50%)、小テスト 5 回(50%)
評価基準	60 点～69 点(可)、70 点～79 点(良)、80 点～100 点(優)を合格とし、59 点以下(不可)を不合格とする。
教科書・参考書	教科書は使用しません。 参考書については、授業の中で適宜紹介します。
履修条件	特になし
履修上の注意	講義中心になるため、討論等の時間がとれません。質問や意見等積極的に行ってください。また、授業の中で紹介する参考書等を読み、人間理解、自己理解に努めてください。
予習・復習	予習:各授業時終了時に、次回の講義内容に関する予習課題を提示します(1 時間)。 復習:授業で学習した内容について、配布資料やノートなどで振り返り、学習を確実なものにすること(1 時間)。 授業の中で紹介する参考文献等を図書館や各種メディアを通して入手し、主体的に学習を進めること(2 時間)。
オフィスアワー	随時
備考・メッセージ	特になし ＊JABEE 学習・教育目標(1.5)

講義科目名: ながさを学ぶ
英文科目名: Nagasaki Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
B・F・パークガフニ			
1 年次以上	全学部	週 2 時間	

講義概要	長崎は、貿易港として十六世紀に開港して以来、独特な折衷文化を育みながら日本の近代化に大きな役割を果たしてきた。なお、現代もさげばれている「国際理解」や「世界平和」を考える上で、示唆に富んだ街である。この講義では、長崎における国際交流の歴史を様々な角度から検討し、「世界の長崎」について理解を深める。なお学生はチーム分けして特定のテーマについてフィールド調査を行い、クラスでその成果を発表する。
授業計画	<p>ながさを学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションと講義説明 2. 長崎開港とキリシタン文化 3. 長崎の地域文化に見る中国の影響 4. 「長崎と中国」(調査発表) 5. 鎖国時代における出島とオランダ人 6. シーボルトと西洋医学 7. 安政開港と長崎居留地の開設 8. イギリス人商人と日本の近代化 9. オペラ「蝶々夫人」と長崎 10. 絵葉書に見る長崎の昨今 11. 「絵葉書に見る長崎の昨今」(調査発表) 12. 端島(軍艦島)の光と影 13. 倉場富三郎とウォーカー一家 14. 長崎と原爆 15. まとめ
授業形態	講義と一部実習
達成目標	長崎特有の歴史と文化に関する知識を身に着ける。
評価方法	講義での取り組み姿勢30%、小テスト、レポートおよび発表70%として、合計100点満点で評価する。
評価基準	優は80点から100点、良は70点から79点、可は60点から69点、不可は59点以下とし、60点以上が合格である。
教科書・参考書	特になし。授業内容に応じてプリントを配布する。
履修条件	受講希望者が多い場合は、何らかの制限を行う可能性がある。
履修上の注意	特になし。
予習・復習	各自授業の復習とプレゼンテーションの準備をすること。
オフィスアワー	講義中に指示する
備考・メッセージ	<p>特になし。</p> <p>* JABEE 学習・教育目標(1.5)</p>

講義科目名: 日本事情概論

英文科目名: Japan Today

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	2 単位	選択(留学生のみ)
担当教員			
木永 勝也			
1 年次	全学部(留学生対象)	週 2 時間	

講義概要	現在の日本日本の政治や社会・文化について入門的な講義をおこないます。暮らしのなかで感じている疑問や感触をつづじて、「日本」「日本社会」という存在をもう一度考え確認する機会をもつための、留学生を対象とした科目です。
授業計画	<p>受講生の状況(希望など)により、進行や内容が変わります。</p> <p>第 1 回 はじめに 授業の内容紹介と受講生相互の紹介</p> <p>第 2 回 最近の日本社会、生活の動向を知る・考える1</p> <p>第 3 回 最近の日本社会、生活の動向を知る・考える2</p> <p>第 4 回 最近の日本社会、生活の動向を知る・考える3</p> <p>2 回から 4 回関心のあることから、日本社会への疑問を考えてみる</p> <p>または報道番組、ドキュメンタリー番組の視聴とディスカッション</p> <p>第 5 回 日本の生活習慣、年中行事を考えてみる(1)着るもの</p> <p>第 6 回 日本の生活習慣、年中行事を考えてみる(2)食べるもの</p> <p>第 7 回 日本の生活習慣、年中行事を考えてみる(3)住むところ</p> <p>第 8 回 日本の経済のしくみ、生活を考えてみる(1)給料明細の見方</p> <p>第 9 回 同 (2)給料明細から考える</p> <p>第 10 回 同(3)税金のしくみ</p> <p>第 11 回 同 (4)保険 その1:国民健康保険</p> <p>第 12 回 同 (5)保険 その2:社会保険など</p> <p>第 13 回 同 (6)社会保障のしくみ</p> <p>第 14 回 同 (7)社会保障のしくみ 続き</p> <p>第 15 回 おわりに 補足またはレポート作成の注意事項など</p>
授業形態	日本語で行います。基本は、受講生と教員の質疑応答、ディスカッションなどにより、ゼミナールの形式で行うことになります。
達成目標	日本の現状・現在の社会や状況について理解が深まり、今後、興味を持ったことについて調べていくためのきっかけを得ることができるようにすること。
評価方法	毎回の授業への出席、授業での質疑応答などにより、平常の状況として評価する。毎時間提出を求めるコメントと、数回の小レポート(最後の小レポートも含む)により評価を行う。
評価基準	感想文を含めた平常の状況が4割、数回提出してもらった短いレポートが6割の比重となる。100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 受講者が多人数となった場合のみ試験を行い、その場合は、平素の出席状況・感想文を3割、小レポートを3割、試験成績を4割に配分して評価する。
教科書・参考書	テキスト等は特に指定しません。プリントなどを配布して教材とします。
履修条件	留学生対象科目です。そのため留学生のみ受講できます。講義は日本語のみで行いません。
履修上の注意	毎回欠席することなく出席すること。他には特にありません。
予習・復習	予習としては、日頃の生活のなかで感じる疑問や感想を覚えておき、それを日本語で説明、表現できるようにしておくこと。復習としては授業での討論などで学習したことを文章化できるようにノートなどに整理してみること。
オフィスアワー	月曜 12 時 30 分から 3 限目終了時くらいまでとなります。他の曜日には、できれば事前に連絡して訪ねてください。
備考・メッセージ	授業の回によっては、配布した資料を音読したりします。また、わからない言葉を一緒に調べたりしますので、辞書(電子辞書を含む)などがあると便利かもしれません。毎時間、気楽に、考えや思ったことを話してみてください。

講義科目名: 政治学

英文科目名: Nagasaki Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
芝野 由和			
1 年次	全学部	週 2 時間	

講義概要	政治とは、一定の人間集団の利害調整と秩序形成作用だともいわれる。それを可能にするものは何か、どんな秩序が望ましいのか。この点をめぐって政治の世界では特有の「ことば」が自明のことのように使われる。こうした「ことば」(国家、国民、自由、民主主義、改革など)の本来の意味または定義と、現在の使われ方を比較検討しながら、「政治のイメージ」「政治像」を見直す。
授業計画	1. ガイダンス(授業概要の説明) 2. 政治(学)の対象 3. 記念日・祝日の政治学—ゴールデンウィークを前に 4. 近代政治原理の原点—「市民革命」の課題 5. フランス革命における「政治の世界」と「民衆の世界」 6. チャーティスト運動—「政治改革」の視点 7. 選挙制度について 8. パリ・コミュン—「行政改革」の視点 9. 「デモクラシー」の政治 10. シンボル操作—大衆社会状況と政治 11. ナショナリズム—国家と国民・市民 12. 社会主義—思想・運動・体制 13. 「開かれたシステム」と現代国家 14. グローバリゼーションのなかの政治と社会 15. 補足とまとめ
授業形態	講義。
達成目標	概念の歴史的変遷をたどることにより、現代の政治の世界でのその「ことば」の使われ方を批判的に相対化する視点を獲得すること。
評価方法	通常講義中の小レポートと前期末試験などを総合的に評価する。
評価基準	平常点(毎回の意見感想カードの記述)と期末試験の得点を 3 対 7 の重みで算定する。
教科書・参考書	教科書は使わない。必要な資料は適宜配布する。 参考文献などは講義のなかでそのつど紹介する。
履修条件	とくになし。
履修上の注意	教科書を使わないので、ノートをしっかりとること。配布資料は授業後に再度目を通すこと。
予習・復習	予習:各講義に対し提示される予習項目をもとに、適正な Web サイトや事典などで調べてくること。復習:講義で書き留めたノートを整理し、参考文献などにあたって理解を深めること。
オフィスアワー	原則として当該授業の後の時間。
備考・メッセージ	この講義を通じて新聞、ニュースへの関心を高めてもらいたい。 * JABEE 学習・教育目標(1.5)

講義科目名: 社会学 I
英文科目名: Sociology I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
古川 直子			
1 年次	全学部	週 2 時間	

講義概要	この授業では社会学の基本的な用語や考え方を学び、具体的な問題を取りあげながら現代社会のあり方を問いなおすための視点を提供する。
授業計画	第1回 インTRODakション 第2回 家族とライフコース(1)家族とメディア 第3回 家族とライフコース(2)プライベート空間化する家族 第4回 家族とライフコース(3)家族と社会保障 第5回 ジェンダーとセクシュアリティ(1)性別役割分業 第6回 ジェンダーとセクシュアリティ(2)セクシュアリティの多様性 第7回 ジェンダーとセクシュアリティ(3)性同一性障害 第8回 格差と階層化(1)近代化と階級・階層 第9回 格差と階層化(2)格差・階層化の新段階 第10回 格差と階層化(3)再生産される不平等 第11回 文化と再生産(1)文化の享受と戦略 第12回 文化と再生産(2)文化による再生産と排除 第13回 空間と場所(1)社会学の空間体験 第14回 空間と場所(2)場所を取り戻す 第15回 まとめ
授業形態	講義形式
達成目標	社会学における基本的な考え方を身につけ、現代社会の諸問題を分析することができる。
評価方法	平常点(授業中に実施する小テストやリアクションペーパー、授業態度)と期末試験。
評価基準	平常点 40%、期末試験 60% 優(80~100 点)、良(70~79 点)、可(60~69 点)、不可(59 点以下)。 ・欠席・遅刻は減点対象とする。 ・授業を妨害する行為は大幅に減点する。
教科書・参考書	長谷川公一ほか『社会学(New Liberal Arts Selection)』有斐閣
履修条件	特になし。
履修上の注意	初回授業で、講義の進め方や成績評価についての説明をおこなうため、受講希望者は第一回目の授業に必ず出席してください。
予習・復習	事前に配布した資料を読み、授業に臨むこと。予習・復習時間は、授業と同程度を目安とする。
オフィスアワー	授業中に指示する
備考・メッセージ	特になし。 ＊JABEE 学習・教育目標(1.5)

一年次後期配当科目

科目一覧

ページ	科目名	授業コード	時間割
16	平和を学ぶ	16117	水曜 3 限
17	憲法Ⅱ	16250	月曜 1 限
18	現代社会と教育	16251	火曜 4 限
19	現代社会と法	16252	月曜 2 限
20	哲学	16255	水曜 4 限
21	経済学	16257	火曜 1 限
22	近現代史	16258	火曜 3 限
23	人間関係論	16265	水曜 1 限
24	日本文化論	16267	金曜 1 限
25	大学生入門 d	16276	火曜 5 限
26	文学	16277	水曜 4 限
27	社会学Ⅱ	16278	木曜 1 限

講義科目名: 平和を学ぶ
英文科目名: Study of Peace

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
古川 直子			
1 年次以上	全学部	週 2 時間	

講義概要	近年の平和学では、戦争や紛争などの直接的な暴力はもとより、飢餓、貧困、差別、抑圧などの不平等な社会的構造もまた、平和を阻むものと考え。この授業では、このような構造的暴力の具体的局面を、日本と世界の事例からとりあげ、広い意味での平和について考える視点を身につける。また、戦後の平和学／平和運動の展開において、被爆地としてのヒロシマ・ナガサキは、とりわけ重要な役割を果たしてきた。授業の後半では、長崎という地域に固有の体験から、戦争と平和について考える。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 構造的暴力とは何か 第3回 豊かさのなかの貧困 第4回 子どもの貧困 第5回 ナショナリズムと民族問題 第6回 日本の植民地支配と過去の清算 第7回 日本における排外主義 第8回 戦時性暴力 第9回 世界における女性への暴力 第10回 長崎における被曝の実相 第11回 長崎の戦後復興と爆心地の再生 第12回 被曝の記憶と忘却 第13回 被曝という体験を語る／語らないこと 第14回 長崎からナガサキへ平和運動の展開 第15回 まとめ
授業形態	講義形式
達成目標	戦争や紛争などの直接的な暴力に加え、飢餓、貧困、差別、抑圧などの不平等な社会的構造との対比における平和という観点へのアプローチを身につける。
評価方法	平常点(授業中に実施する小テストやリアクションペーパー、授業態度)と期末レポート。
評価基準	平常点 40%、期末レポート 60% 優(80～100 点)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(59 点以下)。 ・欠席・遅刻は減点対象とする。 ・授業を妨害する行為は大幅に減点する。
教科書・参考書	授業中に適宜紹介する。
履修条件	特になし。
履修上の注意	初回授業で、講義の進め方や成績評価についての説明をおこなうため、受講希望者は第一回目の授業に必ず出席してください。
予習・復習	事前に配布した資料を読み、授業に臨むこと。予習・復習時間は、授業と同程度を目安とする。
オフィスアワー	授業中に指示する
備考・メッセージ	特になし。 ＊JABEE 学習・教育目標(1.5)

講義科目名: 憲法Ⅱ

英文科目名: Constitution Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
柴田 守			
1 年次以上	全学部	週 2 時間	

講義概要	本講義では、(1)日本国憲法が保障する人権の基本的な内容を理解するとともに、(2)私たちが共生する社会において、憲法上の権利がどのように具現化されるべきなのかを考えていきます。
授業計画	<p>憲法上の権利の具現化を考える</p> <p>第 1 回 ガイダンス・日本国憲法の基礎</p> <p>第 2 回 憲法上の権利の主体と適用範囲</p> <p>第 3 回 憲法上の権利の限界</p> <p>第 4 回 個人の尊厳・包括的基本権</p> <p>第 5 回 法の下での平等</p> <p>第 6 回 家族生活における個人の尊厳と両性の平等</p> <p>第 7 回 思想・良心の自由</p> <p>第 8 回 信教の自由</p> <p>第 9 回 表現の自由の意義と保護範囲</p> <p>第 10 回 表現の自由の制限の合憲性と現代的課題</p> <p>第 11 回 集会結社の自由、学問の自由</p> <p>第 12 回 経済的自由</p> <p>第 13 回 刑事手続上の権利</p> <p>第 14 回 参政権・国務請求権</p> <p>第 15 回 社会権</p>
授業形態	<p>【講義形式】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義は、受講者の予習をもとに、教科書、レジュメ、ワークシートに沿って講述する方法をとります。 ・講義は、ワークシートの設問に沿い、受講者との対話によって行います(したがって、受講者には、講義の予習課題として事前に配布するワークシートに必ず取り組んでいただき、それを授業日当日に提出していただきます)。 ・対話形式の講義を進めやすくするために、受講者に対し、座席を指定いたします。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者は、日本国憲法が保障する人権の基本的な内容を正しく理解し、新聞やニュースで話題となる社会問題を考える能力を身につけることができる。 ・受講者は、私たちが共生する社会での憲法上の権利の具現化について考える能力を身につけることができる。
評価方法	(1)授業内平常点(授業内での発言力、授業態度、ワークシートの提出状況・内容)と、(2)授業内テスト(2 度実施)にもとづいて評価します。授業内平常点 50%、学期末試験 50%を目安にして最終評価をおこないます。
評価基準	<p>【授業内平常点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①授業内での発言力では、授業内での質疑応答を加点・減点評価します。 ②授業態度では、議論や作業での積極性を加点評価します。他方で、欠席・遅刻を減点評価し、授業を妨害する行為などに対しては大幅に減点評価します。 ③ワークシートの提出状況・内容では、提出状況や内容に応じて加点・減点評価します。 <p>【授業内テスト】</p> <p>講義の内容を正しく理解し、与えられたテーマについて適切に解答できるかを見ます。</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <p>安西文雄・巻美矢紀・穴戸常寿『憲法学読本[第 2 版]』(有斐閣、2014 年) ISBN978-4-641-13172-9</p>
履修条件	前期に開講する「憲法Ⅰ」の内容を踏まえて講義を展開しますので、「憲法Ⅰ」を受講し、単位を取得していることが望ましいです。
履修上の注意	<p>講義の進行、成績の評価、予習などに関する方法を、第 1 回講義のガイダンスにおいて詳しく説明します。受講希望者は、第 1 回講義に必ず参加してください。</p> <p>＊ ＊ 第 2 回講義以降は一切説明いたしませんのでご注意ください。 ＊ ＊</p>
予習・復習	<p>【ワークシートへの取り組み(予習)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者は次回の講義内容について教科書の指示されたページを精読し、ワークシートの設問に解答します(1 回 2.5 時間×14 回)。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者は自筆ノートを整理するとともに、ワークシートの誤答を修正します(1 回 2.5 時間×14 回)。
オフィスアワー	日時: 月曜日 12 時 30 分～14 時 30 分(授業期間中) 場所: 柴田研究室(3 号館 3 階)
備考・メッセージ	<p>ぜひ毎朝、新聞を読んで授業に臨んでください。講義が進むにつれて、社会のことが分かるようになります。新聞の内容がだんだん理解できるようになると思います。</p> <p>＊ JABEE 学習・教育目標(1.5)</p>

講義科目名: 現代社会と教育

英文科目名: contemporary society and education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
上 蘭 恒太郎			
1 年次以上	全学部	週 2 時間	

講義概要	本講義では、参加者の関心と授業者の関心にしたがって、子どもの貧困、世界の教育目的、子どもの本の世界を通じて教育の多様な思考と文化を知り、子ども問題の世界を涉猟しながら、比較・考察を通じて、日本の教育と自分の意識を浮き彫りにする。
授業計画	第1講 教育文化の国際比較 第2講 世界の教育事情 第3講 ドイツの教育 第4講 イギリスの教育 第5講 中国の教育 第6講 台湾の教育 第7講 子どもの貧困 第8講 相対的貧困 第9講 学びと教育 第10講 入試歴社会 第11講 ゆとり教育と「学力低下」論争 第12講 自己肯定感 第13講 子どもの本の世界 第14講 日本文化の異質性と同質性 第15講 多文化の教育
授業形態	講義、事前の調べ学習、討論
達成目標	海外の教育について知り、日本と自分の意識のなかの教育について再考する。
評価方法	学期末のレポート(50 点)と出席・ミニレポート(50 点)により評価します。
評価基準	上記の方法によって出された点数が 60 点以上を単位取得の基準とする。
教科書・参考書	適宜資料を配布。
履修条件	特になし
履修上の注意	特になし
予習・復習	予習・復習として、事前の調べ学習、討論の準備を
オフィスアワー	随時
備考・メッセージ	ノルウェーの昔話『三びきのやぎのがらがらどん』マーシャ・ブラウン絵、瀬田貞二訳、福音館書店、ならびに チャールズ M.シュルツ、細谷亮太、『チャーリー・ブラウンなぜなんだい?—ともだちがおもい病気になったとき』岩崎書店を読んでおくこと。 ＊JABEE 学習・教育目標(1.5)

講義科目名: 現代社会と法

英文科目名: Contemporary Society and Law

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
柴田 守			
1 年次以上	全学部	週 2 時間	

講義概要	本講義では、(1)家庭、医療、福祉など私たちの身近に存在する様々な法制度の基本的な内容を理解し、(2)その課題を周辺諸科学などの知見を活用して多角的に検討して、これからの社会に向けてどのように変革していくべきなのかを考えていきます。
授業計画	<p>私たちの身近な法制度の在り方を考える</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・現代社会における法制度を学ぶにあたって 2. 法の基本(1)ー自由(未成年者の飲酒・喫煙禁止を題材にして) 3. 法の基本(2)ー平等(ポジティブアクションを題材にして) 4. 法の基本(3)ー社会権(生活保護や社会保険を中心に) 5. 家庭と法(1)ー家族に関する法制度(扶養義務を中心に) 6. 家庭と法(2)ー夫婦に関する法制度(夫婦の氏や経済を中心に) 7. 家庭と法(3)ー夫婦に関する法制度(夫婦間の平等と差別を中心に) 8. 家庭と法(4)ー子どもに関する法制度(虐待や子どもの貧困を中心に) 9. 医療と法(1)ー生に関する法制度(人工授精や代理出産を中心に) 10. 医療と法(2)ー生と死に関する法制度(人工妊娠中絶を中心に) 11. 医療と法(3)ー生と死に関する法制度(臓器移植を中心に) 12. 医療と法(4)ー死に関する法制度(安楽死・尊厳死を中心に) 13. 社会・福祉と法(1)ー性に関する法制度(LGBTを中心に) 14. 社会・福祉と法(2)ー高齢者に関する法制度(老齢年金を中心に) 15. 社会・福祉と法(3)ー高齢者に関する法制度(高齢者介護を中心に)
授業形態	<p>【講義形式】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義は、受講者の予習をもとに、教科書、レジュメ、ワークシートに沿って講述する方法をとります。 ・講義は、ワークシートの設問に沿い、受講者との対話によって行います(したがって、受講者には、講義の予習課題として事前に配布するワークシートに必ず取り組んでいただき、それを授業日当日に提出していただきます)。 ・対話形式の講義を進めやすくするために、受講者に対し、座席を指定いたします。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者は、家庭、医療、福祉など私たちの身近に存在する様々な法制度の基本的な内容を正しく理解し、新聞やニュースで話題となる社会問題を考える能力を身につけることができる。 ・受講者は、家庭、医療、福祉など私たちの身近に存在する法制度の課題を周辺諸科学などの知見を活用して多角的に検討して、これからの社会に向けてどのように変革していくべきなのかについて考える能力を身につけることができる。
評価方法	(1)授業内平常点(授業内での発言力、授業態度、ワークシートの提出状況・内容)と、(2)授業内テスト(2 度実施)にもとづいて評価します。授業内平常点 50%、学期末試験 50%を目安にして最終評価をおこないます。
評価基準	<p>【授業内平常点】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業内での発言力では、授業内での質疑応答を加点・減点評価します。 ②授業態度では、議論や作業での積極性を加点評価します。他方で、欠席・遅刻を減点評価し、授業を妨害する行為などに対しては大幅に減点評価します。 ③ワークシートの提出状況・内容では、提出状況や内容に応じて加点・減点評価します。 <p>【授業内テスト】</p> <p>講義の内容を正しく理解し、与えられたテーマについて適切に解答できるかを見ます。</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <p>古橋エツ子編『新・初めての人権』(法律文化社、2012 年) ISBN:978-4-589-03416-8</p>
履修条件	前期に開講する「法学入門」の内容を踏まえて講義を展開しますので、「法学入門」を受講し、単位を取得していることが望ましいです。
履修上の注意	<p>講義の進行、成績の評価、予習などに関する方法を、第 1 回講義のガイダンスにおいて詳しく説明します。受講希望者は、第 1 回講義に必ず参加してください。</p> <p>＊ ＊ 第 2 回講義以降は一切説明いたしませんのでご注意ください。 ＊ ＊</p>
予習・復習	<p>【ワークシートへの取り組み(予習)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者は次回の講義内容について教科書の指示されたページを精読し、ワークシートの設問に解答します(1 回 2.5 時間×14 回)。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者は自筆ノートを整理するとともに、ワークシートの誤答を修正します(1 回 2.5 時間×14 回)。
オフィスアワー	日時: 月曜日 12 時 30 分～14 時 30 分(授業期間中) 場所: 柴田研究室(3 号館 3 階)
備考・メッセージ	<p>ぜひ毎朝、新聞を読んで授業に臨んでください。講義が進むにつれて、社会のことが分かるようになります。新聞の内容がだんだん理解できるようになると思います。</p> <p>＊ JABEE 学習・教育目標(1.5)</p>

講義科目名: 哲学

英文科目名: Study of Peace

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
古川 直子			
1 年次以上	全学部	週 2 時間	

講義概要	この講義では「自己と他者」というテーマについて、社会理論や臨床哲学、現代思想などの知見をとりいれながら考えてゆく。授業で用いる資料については適宜配布する。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 自己を認識する 第3回 身体イメージと自己 第4回 鏡に映った自己(1)ラカン 第5回 鏡に映った自己(2)メルロ＝ポンティ 第6回 鏡に映った自己(3)他者の視線における自己 第7回 鏡に映った自己(4)鏡像認知と自己認識 第8回 鏡に映った自己(5)幻肢痛という体験 第9回 自己を物語る 第10回 物語としての自己(1)個人の記憶と集団的記憶 第11回 物語としての自己(2)自己を他者に物語ること 第12回 物語としての自己(3)自己の自明性の揺らぎ 第13回 物語としての自己(4)現実の自明性の揺らぎ 第14回 自己という体験 第15回 まとめ
授業形態	講義形式
達成目標	自己と他者というテーマについて、社会学や哲学の基本的な考え方を身につける。
評価方法	平常点(授業中に実施する小テストやリアクションペーパー、授業態度)と期末試験。
評価基準	平常点 40%、期末試験 60% 優(80～100 点)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(59 点以下)。 ・欠席・遅刻は減点対象とする。 ・授業を妨害する行為は大幅に減点する。
教科書・参考書	井上俊・船津衛[編]『自己と他者の社会学』(2005 年、有斐閣)
履修条件	特になし。
履修上の注意	初回授業で、講義の進め方や成績評価についての説明をおこなうため、受講希望者は第一回目の授業に必ず出席してください。
予習・復習	教科書の該当箇所や、事前に配布した資料を読み、授業に臨むこと。 予習・復習時間は、授業と同程度を目安とする。
オフィスアワー	授業中に指示する
備考・メッセージ	特になし。 ＊JABEE 学習・教育目標(1.5)

講義科目名: 経済学
英文科目名: economics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
橋本 敦夫			
1 年次以上	全学部	週 2 時間	

講義概要	経済学を学ぶ目的は、客観的な立場で経済現象について考え、理解することができる能力を身に付けることである。私たちが生活している社会は、多くの制約のなかで動いている。あることを実現しようとする、別のことを犠牲にしなければならない。私たちが直面する様々な経済現象を捉え、多くの制約のなかでどのような選択を行うべきかという点について学ぶ。
授業計画	第 1 回 イントロダクション: 経済学とは何か 第 2 回 ミクロ経済学: 需要と供給 第 3 回 ミクロ経済学: 需要曲線と消費者行動 第 4 回 ミクロ経済学: 費用の構造と供給行動 第 5 回 ミクロ経済学: 市場取引と資源配分 第 6 回 ミクロ経済学: 独占と競争の理論 第 7 回 ミクロ経済学: 市場の失敗 第 8 回 ミクロ経済学: 不確実性と不完全情報 第 9 回 マクロ経済学: GDPについて 第 10 回 マクロ経済学: 有効需要と乗数メカニズム 第 11 回 マクロ経済学: 貨幣の機能 第 12 回 マクロ経済学: マクロ経済政策 第 13 回 マクロ経済学: インフレ・デフレと失業 第 14 回 マクロ経済学: 高齢社会と財政運営 第 15 回 マクロ経済学: 経済成長と経済発展
授業形態	講義を中心に行う。
達成目標	経済学の基本的な考えを説明できる。 客観的に経済社会を見極めるための知識を持つ。
評価方法	期末試験(70%)、レポートおよび小テスト(30%)で評価する。
評価基準	総合評価において60%以上を合格とする。
教科書・参考書	伊藤元重著『入門経済学(第4版)』日本評論社、2015 年
履修条件	特になし。
履修上の注意	予習と復習を確実にすること。
予習・復習	伊藤元重著『入門経済学(第4版)』日本評論社、2015 年を予習しておくこと。講義は段階的に進めるため必ず出席すること。理解できないところは必ず質問に来ること。
オフィスアワー	授業開始時に指定する。
備考・メッセージ	特になし。 * JABEE 学習・教育目標(1.5)

講義科目名: 近現代史

英文科目名: Modern History

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
木永 勝也			
1 年次以上	全学部	週 2 時間	

講義概要	20世紀の「帝国日本」国家をめぐる国外との動向の関係を主に検討する。戦争や国内の政治体制の動向を取り扱い、「現在」とも関連させられる日本の「近現代」をどのように考えいのか、諸研究を紹介しつつ検討することにした。 また、国家的動向が地域社会にどのような影響をもたらすのか、という角度から、長崎市・長崎県という地域社会の動向を考えていきます。
授業計画	20世紀の「帝国」日本 以下のような項目で行う。 受講者の関心・要望、授業の進行状況により調整する。 1. はじめに－いろいろな「植民地」 2. 日清・日露戦争の概略 3. 日露戦後の状況 4. 第一次大戦と帝国日本①対中国政策 5. 第一次大戦と帝国日本②大戦景気と長崎 6. ヴェルサイユ・ワシントン体制の成立と特徴① 7. ヴェルサイユ・ワシントン体制の成立と特徴② 8. 南洋と帝国日本の関係略史 9. 1920 年代の中国と帝国日本～長崎と上海 10. 満州事変の概要 11. 満州事変期の諸相①満州国とその承認問題 13. 満州事変期の諸相②国内の熱狂と「孤立」 14. 「平時」と「戦時」の間－「非常時」の長崎市の動向 15. 日中＜全面＞戦争と「戦時」
授業形態	基本的には講義形式で行います。何回かは講義中に視聴覚教材を使用します。
達成目標	アジアの中での日本の位置について基礎的な知識を再確認できるようにすること、また、平和と戦争の時代としての 20 世紀について自分なりの考えを深めていくためのきっかけを得ることができるようになること。
評価方法	中間レポートを提出してもらいます。学期末に論述式の筆記試験を行う予定ですが、受講者数が少ない場合はレポートによります。また平素の授業への参加状況をコメント用紙の内容をもって評価の材料とします。
評価基準	平素の授業への参加状況をコメント用紙の提出、記載内容を 15%、中間レポートを 35%、期末試験を 50%として配分する。定期試験で 60 点以上を合格とします。
教科書・参考書	史料など授業中に参考となるプリントを適宜配布します。
履修条件	特にありません。
履修上の注意	授業内容と関連した図書や研究論文などは随時紹介します。
予習・復習	復習として、講義で書き留めたノート等をもとに、講義内容や自分で考えた事を整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努めること。予習として各回の講義の配布資料の該当範囲を読んでおくこと。
オフィスアワー	月曜日12時30分から 3 時限目終了時くらいまでです。他の曜日については特にもうけません。が、不在もありますので、できれば事前に連絡して訪ねてください。
備考・メッセージ	特になし。 * JABEE 学習・教育目標(1.5)

講義科目名: 人間関係論
英文科目名: Interpersonal Relations

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
村田 義幸			
1 年次以上	全学部	週 2 時間	

講義概要	「社会的存在」である人間にとって対人関係がどのような意義をもっているのかについて考えます。 私たち人間は、誕生から死に至る生涯にわたり、様々な対人関係の中で生活します。どのような関係の中で生活するのかは、その人の人生に大きく影響します。この授業では、家庭、学校、地域社会、職場等における対人関係に焦点を当て考察します。
授業計画	第 1 回:オリエンテーション 第 2 回:対人関係の意義 第 3 回:家庭における対人関係(1)・・・家庭の機能、親子関係 第 4 回:家庭における対人関係(2)・・・パーソナリティの形成と家族関係 第 5 回:学校における対人関係・・・講師、友人との関係 第 6 回:コミュニティにおける対人関係・・・地域社会との関わり 第 7 回:集団力学・・・集団の圧力、リーダーシップ 第 8 回:コミュニケーションの過程・・・言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 第 9 回:自己理解と他者理解・・・対人認知 第 10 回:恋愛、結婚、新しい家庭の創造 第 11 回:職場における対人関係・・・社会人基礎力 第 12 回:職場における学習・・・絆の中で学ぶ(OJT,メンタリング) 第 13 回:対人関係の病理・・・虐待、DV,いじめ 第 14 回:よりよい対人関係を目指して 第 15 回:まとめ 第 16 回:期末試験
授業形態	講義
達成目標	・対人関係の意義について理解する。 ・自己理解、他者理解の意義について理解する。 ・対人関係におけるコミュニケーションの在り方について理解する。 ・リーダーシップについて理解し、集団のダイナミックスについて理解する。 ・よりよい対人関係づくりに向けて実践しようとする。
評価方法	期末試験(50%)、小テスト 5 回(50%)
評価基準	60 点～69 点(可),70 点～79 点(良),80 点～100 点(優)を合格、59 点以下(不可)は不合格。
教科書・参考書	教科書は、使用しない。 参考書は、授業の中で適宜紹介する。
履修条件	特になし。
履修上の注意	特になし。
予習・復習	予習:日常生活における対人関係の在り方について振り返り、改善点を考えてみる。また、次時の内容を各授業時に予告するので、テーマに関する参考文献を読んでおくこと(1 時間)。 復習:授業で学習した内容を再確認し、定着を図ること。また、専門用語等は辞書等で調べ理解を図ること(1 時間)。 授業中に紹介する参考文献等を読み、課題を見つけて主体的に学習すること(2 時間)。
オフィスアワー	随時
備考・メッセージ	特になし *JABEE 学習・教育目標(1.5)

講義科目名: 日本文化論

英文科目名: Study of Japanese culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択(留学生のみ)
担当教員			
木永 勝也			
1 年次	全学部(留学生対象)	週 2 時間	

講義概要	この講義は、日本の文化について入門的な講義をおこないます。日本、そして、地域に住む人びと、歴史、生活など、多くの出来事のなかには続いてきたことと続いてこなかったことがあります。日本の歴史を中心にしながら、日本の文化のことを考えていきます。
授業計画	日本語による学習を通じて、日本文化のことを考えます。 また、受講生の要望などを組み込みながら授業を展開しますので、開講時に、より具体的な教材、各回の授業のテーマ内容を決めます。 はじめに ガイダンスと相談 第 2 回 日本という国の成り立ち・変遷(歴史から1) 第 3 回 日本という国の成り立ち・変遷(歴史から2) 第 4 回 日本という国の成り立ち・変遷(歴史から3) 第 5 回 日本という国の成り立ち・変遷(歴史から4) 第 6 回 日本という国に住むこと(第 2 次大戦後から現在まで1) 第 7 回 日本という国に住むこと(第 2 次大戦後から現在まで2) 第 8 回 日本という国に住むこと(現在の形ー経済など1) 第 9 回 日本という国に住むこと(現在の形ー経済など2) 第 10 回 日本という国に住むこと(現在の形ー経済など3) 第 11 回 日本文化を読むということ(文学作品など) 第 12 回 日本文化を読むということ(文学作品など) 第 13 回 日本文化を読むということ(文学作品など) 第 14 回 日本文化を読むということ(文学作品など) 第 15 回 おわりに
授業形態	講義形式ですが、質疑応答をしながら行います。 また、しばしば、日本語の文章と一緒に音読します。
達成目標	日本の歴史、文化に触れ、日本の文化を理解するための初歩的な手がかりをえること。 日本文化の様々な面や形を理解していくための能力をやしなうこと。
評価方法	授業中のとりくみや発言など授業への参加状況 小レポートや宿題、期末の試験あるいはレポートによる。
評価基準	平常のとりくみと受講態度など 30% 小レポートや宿題 30% 学期末の試験、あるいはレポート 40% 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。
教科書・参考書	プリントなどを配布します 参考書として、『留学生のための日本史』(山川出版社)をやや古い教科書ですがあげておきます。
履修条件	留学生対象科目です。そのため留学生のみ受講できます。
履修上の注意	日本語のみで学習します。ほぼ毎時間、声に出して文章を読む、あるいは、日本語で短い文章を書いたりします。
予習・復習	予習として講義で配布した資料や関係する文章を読んでおくこと。(資料を紹介する) 復習として授業の内容や自分で考えた事を整理して理解に努めること。
オフィスアワー	月曜 12 時 30 分から 3 限目終了時まで
備考・メッセージ	文化の形を考えることは、その変化を理解し現在の形を考えることです。あるいは日本の文化を東アジアのなかに置き直して、その共通点と相違点を考えることでもあります。少しでも関心あることがふえればと思います。

講義科目名: 大学生入門 d

英文科目名: Foundations for College Success

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択(総合情報学科は必修)
担当教員			
木永 勝也			
1 年次以上	全学部	週 2 時間	

講義概要	いくつかの課題・問題を設定し、さまざまな角度から吟味することを通して、アカデミックスキル、大学での学びを充実させるために必要な能力やスキルを身につけることを目的にします。
授業計画	<p>受講生数により内容・進行を変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 情報とのつきあい方(フェイクニュース、デマ情報をめぐって) 3. 情報とのつきあい方(Wikipedia の利用など) 4. テーマの考え方・決め方 5. 図書館活用法: 資料検索・資料収集 6. 文章の読み方(クリティカル・リーディング) 7. プレゼンテーションの構成や参考文献の示し方など 8回から 14 回まで、『科学技術をよく考える クリティカルシンキング練習帳』(名古屋大学出版会、2013)や新聞記事、Web サイト記事などをもとに、いくつかの問題を取り上げつつ、発表・ディスカッションしていく。 8. 「論理的に考える」事例研究1 9. 「論理的に考える」事例研究2 10. 「論理的に考える」事例研究3 11. 「論理的に考える」事例研究4 12. 「論理的に考える」事例研究5 13. 「論理的に考える」事例研究6 14. 「論理的に考える」事例研究7 15. レポート作成案内など
授業形態	本授業では、前半は講義形式で行ないますが、後半は出席者によるディスカッションを取り入れて進めていきます。受講生数によってグループに分け、報告者を決め、(受講生数により)質問者ももうけて討論会形式で行うこともあります。
達成目標	情報をうのみにしないこと、次に調査した結果を踏まえた客観的な根拠をもとに論理的な立論を行うための基礎をすること、自分の意見や感想を根拠を示しながら述べられるようになることが目標となります。
評価方法	出席・平素の質疑応答、授業後半での発表やディスカッションでの参加状況、レポートを総合して評価します。レポートは、各自が担当した後半の発表やディスカッションをまとめたものを期末にレポートとして提出してもらいます。
評価基準	出席・平素の質疑応答30%、発表(作成した資料レジュメを含む)・ディスカッションへの参加状況を30%。期末のレポートを40%とし、100点を満点とし60点以上を合格とする。
教科書・参考書	教科書は使用しません。 参考図書として、次の図書を参照してもらえれば。伊藤奈賀子ほか『大学での学びをアクティブにする アカデミック・スキル入門～大学 4 年間の基礎をつくる, 新入生用ワークブック』(有斐閣、2016 年)
履修条件	2018 年度入学生が対象です。前期の大学生入門を受講できなかった受講生が対象となります。
履修上の注意	人数により指名しての質疑応答を行う場合もあります。
予習・復習	予習として、各講義で提示する配布資料を読んでおくこと。また、後半では、講義内容や自分で考えたテーマの関連文献を読むなどにより、報告の準備をすること。
オフィスアワー	月曜日の昼休み 12 時 30 分以降と3限目終了頃までとなります。研究室まで訪ねてください。
備考・メッセージ	特にありません。

講義科目名: 文学
英文科目名: Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
ブライアン・バークガフニ			
1 年次	全学部	週 2 時間	

講義概要	「文学」は従来、言語表現による芸術作品を指し、詩・小説・戯曲・随筆・文芸評論などを典型的な例としてきた。しかし、その一方では、文学は言葉によるコミュニケーションのうち、言語のあらゆる力を活用して受け手への効果を増大させようとするものとしても定義される。本講義では、長崎に焦点を絞って、文学、芸術、映画、ポピュラー・カルチャーなどを通して「表現」の特徴と効果を検討して理解を深める。学生は特定のテーマについて調査を行い、クラスでその成果を発表する。
授業計画	文学 1. ガイダンス・講義目的の説明 2. 文学と表現～概要 3. 長崎開港と文学や芸術 4. E・ケンペル著「日本史」 5. シーボルト雇いの絵師、河原慶賀 6. 外国人が見た安政開港後の長崎 7. ピエール・ロティと長崎 8. オペラ「蝶々夫人」の歴史的背景 9. 小説家・大泉黒石と長崎1 10. 小説家・大泉黒石と長崎2 11. 詩人・大野良子著「明治の長崎」1 12. 詩人・大野良子著「明治の長崎」2 13. 長崎の秋祭り「おくんち」と長崎刺繍 14. 映画「解夏」の鑑賞と検討 15. まとめ
授業形態	講義
達成目標	様々な観点から日本語及および英語の表現に関する知識を深め、長崎の歴史と文化を通して文学への理解とグローバル感覚を養う。
評価方法	講義での取り組み姿勢30%、小テスト、レポートおよび発表70%として、合計100点満点で評価する。
評価基準	優は80点から100点、良は70点から79点、可は60点から69点、不可は59点以下とし、60点以上が合格である。
教科書・参考書	特になし。授業内容に応じてプリントを配布する。
履修条件	主体的に学習する意欲、姿勢を持つこと。
履修上の注意	3分の2以上の授業に出席し、主体的に参加することが最低限必要。授業中に指示された自己学習は本学図書館などを利用して必ず行うこと。
予習・復習	各自授業の予習・復習とプレゼンテーションの準備をすること。
オフィスアワー	授業中に指示する
備考・メッセージ	特になし。 *JABEE 学習・教育目標(1.5)

講義科目名: 社会学Ⅱ
英文科目名: SociologyⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
古川 直子			
1 年次以上	全学部	週 2 時間	

講義概要	この授業では社会学の基本的な用語や考え方を学び、具体的な問題を取りあげながら現代社会のあり方を問いなおすための視点を提供する。
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 社会学的に考えるとは？ 第3回 「社会問題」とは何か 第4回 親密性と公共性(1) 電車という公共空間 第5回 親密性と公共性(2) ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 第6回 親密性と公共性(3) ケータイと公共空間の変容 第7回 メディアとコミュニケーション(1) 社会のなかのメディア 第8回 メディアとコミュニケーション(2) コミュニケーション・ツールとしてのメディア 第9回 メディアとコミュニケーション(3) 関係性の変容とメディア 第10回 国家とグローバリゼーション(1) グローバリゼーションとナショナリズム 第11回 国家とグローバリゼーション(2) 「ネーション」としての日本 第12回 エスニシティと境界(1) 境界という社会的世界 第13回 エスニシティと境界(2) 構築されるエスニシティ 第14回 エスニシティと境界(3) 外国人労働者から定住するマイノリティへ 第15回 まとめ
授業形態	講義形式
達成目標	社会学における基本的な考え方を身につけ、現代社会の諸問題を分析することができる。
評価方法	平常点(授業中に実施する小テストやリアクションペーパー、授業態度)と期末試験。
評価基準	平常点 40%、期末試験 60% 優(80～100 点)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(59 点以下)。 ・欠席・遅刻は減点対象とする。 ・授業を妨害する行為は大幅に減点する。
教科書・参考書	長谷川公一ほか『社会学(New Liberal Arts Selection)』有斐閣
履修条件	特になし。
履修上の注意	初回授業で、講義の進め方や成績評価についての説明をおこなうため、受講希望者は第一回目の授業に必ず出席してください。
予習・復習	事前に配布した資料を読み、授業に臨むこと。 予習・復習時間は、授業と同程度を目安とする。
オフィスアワー	授業中に指示する
備考・メッセージ	特になし。 ＊JABEE 学習・教育目標(1.5)